

# 航空機による熱赤外線映像撮影と温度分布解析

熱赤外線撮影は、赤外線センサを航空機に搭載して上空より地表を観測し、そのデータを記録・分析することによって広範囲における地表面の温度分布状況について把握・解析することを目的としています。観測データは、映像データ・画像データとして扱われ、撮影対象の温度状況(温度差)を視覚的に捉えるだけでなく、現地調査や資料を併用することで温度の算出、また現状だけではなく別条件・他時期における状態を想定・予測することも可能となります。

## —主な撮影目的—

都市部の緑地による温度低減効果の検証

生態系調査に関連した河川・海水の水温分布

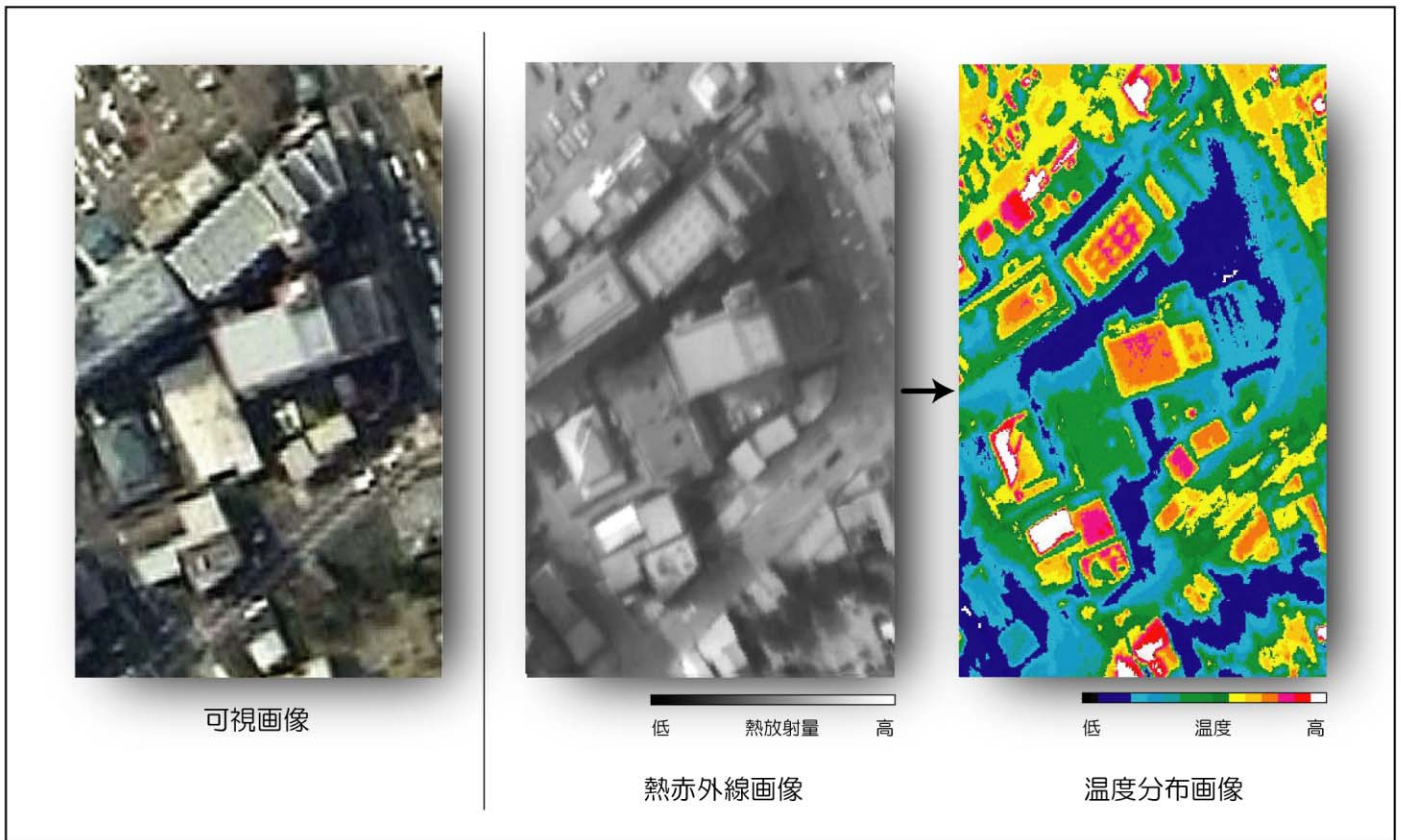
温度低減処理を施した建設物（道路 等）の温度調査

## <熱赤外面像と温度分布画像>

熱赤外線画像は、8~12 $\mu$ mの熱赤外波長帯で放射されたエネルギーを検出して画像化したもので、明るい（白い）箇所ほど放射が強い（温度が高い）ことを示しています。

その熱赤外線画像と現地の温度調査データを使用して、地表面の温度分布画像を作成しました。温度を一定の幅で区分してカラー表示した画像です。

可視画像は、人間の目と同じ感覚で表示した画像で、同時に撮影することが可能です。



エア・グラフでは、観測だけではなく観測データを使用した画像解析処理もおこなっております。

報告書やパンフレット等への掲載用として観測画像に文字・凡例などの装飾を施したイメージ図を作成することや、観測データと現地調査データ・既存資料を使用して、調査や検証作業などに利用する画像解析処理も実施しており、目的に応じたご提案をさせていただきます。